

下街道：瑞浪市名滝—釜戸—恵那市竹折—榎ヶ根

てんにゆうじ

天猷寺（龍吟山、臨濟宗妙心派）

元和2年(1616)馬場三郎左衛門が創建  
左衛門は関ヶ原合戦で徳川秀忠の先鋒として活躍。後旗本となり釜戸量1600石を拝領。旗本馬場氏の菩提寺。  
延宝8年(1680)馬場氏3代目利尚が現在地に移す。本堂享保19年(1734)再建の時本堂の柱50数本を一本の大ケヤキからとったという。別名一木寺  
山門は天保6年(1835)建立、全てハナノキを使用。



馬場氏の墓



釜戸町屋

町内の下街道は古代東山道  
中世鎌倉街道に沿っていた。  
町筋には旅籠、茶屋が並び  
街村を形成していた。  
問屋は大島村安藤家、中切村は保母家が交替で行った。



泥地藏

ここから南側彼方の低い山に  
美しい娘が住んでいたが火傷で  
亡くなる。その娘の供養に焼け跡  
に祀られていたが通行人に事故が  
多かったため占いにより現在地に  
移る。火傷部位に泥を塗って治療祈  
願したという。



”馬の水呑み場”跡、常夜灯  
馬頭観音などが残る  
桜の木立場跡  
宝珠寺  
泥地藏と馬頭観音  
馬頭観音  
出雲大社  
常夜灯

小川酒造”竜吟”  
屋敷内に明治天皇が昼食  
に使った”御膳水”井戸残る。



釜戸地名発祥の地  
平安時代(1200年頃)この洞の  
巨岩がご飯炊くかまどに似て  
いたことから”かまど”と呼ばれる。  
”天地の 声とどけきは かまど山  
草木とともに 春は来にけり”  
西行法師



中切辻道標  
ここから中山道御嵩へ、5里足らずの  
脇街道(中街道)、中世の鎌倉街道  
に沿っている。  
「左伊勢道」寛政十年(1798)戊  
「右中街道」中仙道御嶽之道」  
明治15年6月建立



瑞現寺

山門織田信秀の居城  
末盛城(名古屋)の  
櫓門移築

祭神大己貴命、少彦名命  
創建鎌倉時代、慶安3年  
(1650)現在地に移る。

武並神社

長福寺

”いとう鶴”酒造

先祖は慶長5年(1600)関ヶ原合戦  
で敗れた成瀬新左衛門がこの地で  
隠遁生活をはじめたことに始まる  
という。酒造りは文政6年(1823)初代  
源兵衛が始めたという。



明治天皇竹折御小休所

遠山家

榎ヶ根の追分

中仙道への合流地点。榎ヶ根立場  
があり江戸後期には茶屋が9軒ほど  
あったという。伊勢神宮遥拝所もあり  
商人、中馬達や善光寺、御嶽、伊勢  
詣りの人々で賑わったという。



竹折の地名  
日本武尊が東征の帰途この辺りで  
竹を折って杖に、又西行法師もこの  
地で竹を折って杖にしたとか。